

令和4(2022)年度農産物直売所・農村レストラン等の都市農村交流施設の利用状況について

令和5(2023)年9月28日 栃木県農政部農村振興課

- 令和4年度の都市農村交流施設の利用者数は、前年度より12万人多い1,731万人（令和3年度比100.7%）となったが、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった平成30年度と比較すると、237万人の減となった。（図1）
- 都市農村交流施設の売上額[※]は、過去最高の198.7億円となった。
※観光農園の売上額は今回調査から調査項目に追加

1 農産物直売所の動向（図2）

- 利用者数は、前年度より3万人少ない1,515万人。
 （令和3年度比99.8%、平成30年度比90.4%）
- 施設数は、前年度より3施設減の163施設。
 売上額は、過去最高の166億円。
- 前年度に対して売上額を伸ばした施設は79施設（約5割）。
SNSの積極的な活用や研修によるスタッフの対応力向上、イベントの再開等に取り組んだ施設が売上額を伸ばした。

2 農村レストランの動向（図3）

- 利用者数は、前年度より2万人多い161万人。
 （令和3年度比101.3%、平成30年度比70.9%）
- 施設数は、前年度より1施設減の57施設。
 売上額は、1.4億円増の16.2億円。
- 前年度に対して売上額を伸ばした施設は47施設（約8割）。
地場産野菜等を使用したパンの販売などの新規事業、オソバチップスなどの新規メニューの開発等に取り組んだ施設が売上額を伸ばした。

3 観光農園の動向（図省略）

- 利用者数は、前年度より14万人多い55万人。
 （令和3年度比134.1%、平成30年度比85.9%）
- 施設数は、前年度より1施設減の33施設。うち前年度に対して利用者数が増加した施設は22施設（約7割）であった。
 売上額は16.5億円。

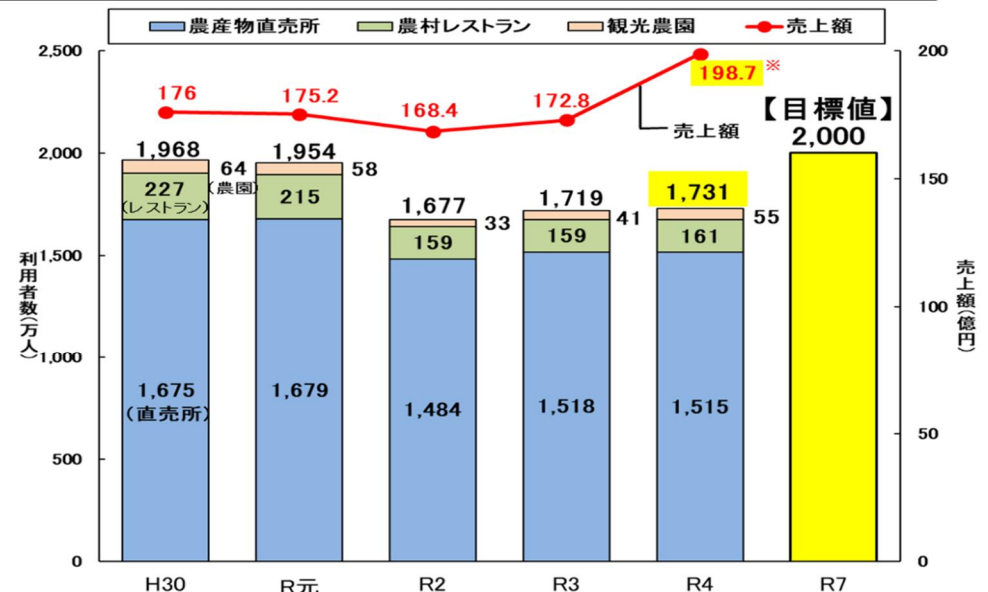


図1 都市農村交流施設全体の利用者数及び売上額の推移

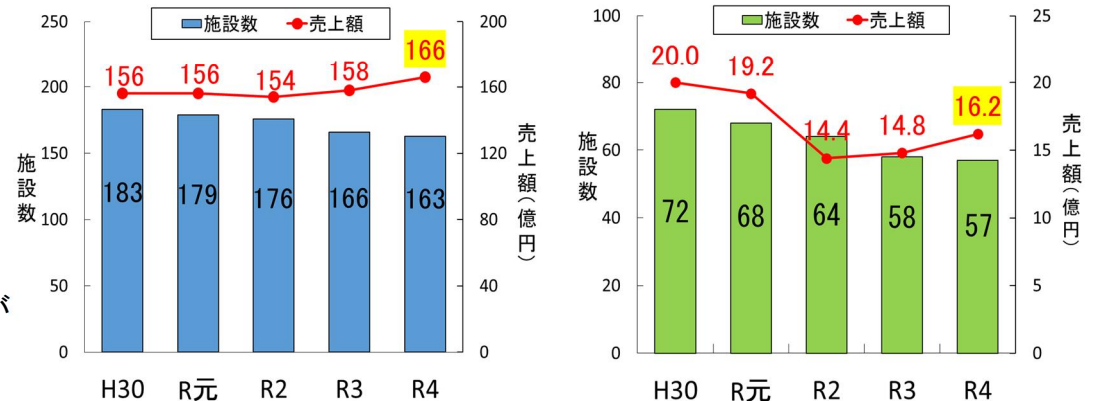


図2 農産物直売所の施設数及び売上額の推移

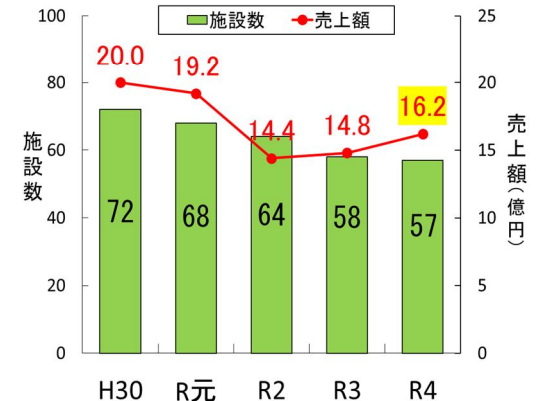


図3 農村レストランの施設数及び売上額の推移

【トピックス】にぎわいを取り戻し、売上額を伸ばしている主な都市農村交流施設

【道の駅】

アグリパル塩原（那須塩原市）

地場産農産物を使用した商品づくり

トマトなどの地場産農産物を使用したソフトクリームの販売や、地場産の切干大根を餡に使用した饅頭の販売再開などにより誘客が促進され、売上額が増加している。



販売施設「アグリのパレット」



ソフトクリーム
（トマト味）



切干大根饅頭



【農産物直売所】

ゆうがおパーク（下野市）

大型ディスプレイの設置や試食会の開催による販売促進

大型ディスプレイによる商品のPRや、下野市が全国1位の生産量を誇るかんぴょうの試食会の開催などにより誘客が促進され、売上額が増加している。



ディスプレイ

かんぴょう試食会



【農村レストラン】

農家そば処 通の隠れ家 蕎香（壬生町）

新商品開発による販売促進

新商品として、自家栽培した蕎麦を使用したオソバチップスを店内や道の駅みぶにて販売するほか、今年度はわくわくスマホラリーの対象スポットとして参加し、集客につなげている。



店舗の外観



オソバチップス

